

第2学年〇組 道徳科学習指導案

1 主題名 人への思いやり 内容項目 [B 思いやり、感謝]

2 ねらい 思いやりの心をもって過ごしていくことの大切さを話し合う活動を通して、周りにいる人々によって自分が支えられていることに気づき、人を思いやる心をもって人と関わろうとする態度を育てる。

教材名 「夜のくだもの屋」 (出典 「あすを生きる2」 日本文教出版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

「思いやりの心」とは、自分が他者に能動的に接するときに必要な心のあり方である。それは時には黙って温かく見守るといった表に現れない場合もある。したがって、思いやりの心の根底には、人間尊重の精神に基づく人間に対する深い理解と共感がなければならない。人との関わりの中で、温かい人間愛の精神を深めるとともに、これを模索し続けることは極めて大切なことである。「人間愛の精神」はお互いの存在を肯定的に受け

止めようとする思いが普遍化されたものであり、他者に対する思いやりと感謝の心を通して具現化される。

指導に当たっては、単に思いやりの大切さに気付かせるだけでなく、根底において自分も他者も、共にかけがえのない存在であるということをしかり自覚できるようにすることが大切である。そして、思いやりや感謝の気持ちを言葉にして素直に伝えようとする心が、自己と他者との心の絆をより強くするのだということに気付かせたい。

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

小学校低学年で「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること」、中学年で「相手のことを思いやり、進

んで親切にすること」、高学年で「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること」を

学んできている。中学校1学年では「人のフリみて」を教材として、日々の生活の中で自分を支えてくれている多くの善意や思いやりに気づき、自分の感謝の気持ちを素直に表そうとする態度を育てる学習を行った。

本学級の生徒は、男女ともに仲が良く、お互いに協力して活動することができる。気配りができる生徒も多く、学校生活の中で人に思いやりのある行動や人に優しくする場面も見られる。しかし、まだ相手の立場や気持ちに対する配慮ができず、自己中心的になり他を省みない行動に走る場合がある。日々の生活の中で自己を支えてくれている多くの人の善意や支えに気付いてはいるが、感謝の気持ちを素直に伝えることの難しさを感じたりしている。本教材を通し、誰に対しても思いやりをもって接することの大切さや、他者からの思いやりに対して、感謝の心を伝えようとする素直な心の大切さを考えさせたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、合唱部の練習後、暗い夜道を一人で下校する主人公の少女を心配し、少女が通り過ぎるまで店を開けてくれているくだもの屋のあたたかい思いやりが感じられる教材である。くだもの屋のおばさんが歌う合唱曲を通して、店の明かりが自分のためであったことに少女は気づき、驚きとともに感謝の気持ちになるという内容である。

生徒の実態と教材の特質から、自分に近い人への思いやりはできていても、くだもの屋と少女の関係のように知らない人に対しての思いやりについてはその実現は容易ではなく、だからこそ道徳的価値の実現に向けて考える授業とする。また、くだもの屋の優しさや思いやりに対してすぐに感謝の気持ちを表現できている少女の素直さにも着目し考えさせたい。互いに支えあう経験を積みながら、温かい人間愛の精神に基づく体験の機会を生かし、人間として生きることの喜びを見いだすとともに、思いやりと感謝の心と態度が育まれていくようにしていきたい。そのため、以下の場面を基に話し合うこととする。

【くだもの屋が他人に対して見返りを求めずに明りをつけていたことに「思いやり」を感じる場面】

顔も知らない少女に対し思いやりの心を持ち、それを行動に移したくだもの屋の気持ちに共感させる。そし

て、くだもの屋の見返りを求めない優しい気遣いに気付かせる。その上でなぜそうした「思いやり」が私たちの生活にとって大切なのかを考えさせていきたい。

以上の理由から、本主題を設定した。

4 ねらいとする道徳的価値について考えを深める指導の工夫

- (1) 導入 ・身近な人との思いやりに関する経験を思い出すことで、「思いやり」について考えさせる。
- (2) 展開 ・多様な意見を出させるための発問を工夫する。
・「思いやりの大切さ」についての考え方を話し合うことで、価値理解・他者理解を深めさせる。
・自己を見つめる際には教材と今までの自分とを比較しながら内省化を行わせる。
- (3) 終末 ・「人への思いやり」について考えた授業であったことをおさえ、今後の生き方に生かせるように余韻をもって終わらせる。

5 学習指導過程

段階	学習活動（主な発問）	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 人からの思いやりや、人への思いやりの経験について考える。また、それに対してどう感じたか思い出す。	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の片づけで遅くなった自分を友だちが待っていてくれた。 ・怪我した友だちの荷物を持った。 ・筆記用具を貸した。 ・具合の悪いのを気付いてくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去に受けた思いやりや、思いやった経験を思い出すことで、教材の導入とする。
展開	2 教材「夜のくだもの屋」を聞き、話し合う。		<ul style="list-style-type: none"> ・本時のテーマ「人への思いやり」を提示し、範読を聞く視点を与える。 ・あらすじを掲示して、内容を確認できるようにする。
	<p style="text-align: center;">登場人物 少女 くだもの屋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暗い夜道を一人で帰る少女 ・くだもの屋が、少女が通り過ぎるまで店の明かりをつけている ・少女はくだもの屋の思いやりを知り、支えられていたことに気づく 	<ul style="list-style-type: none"> ・驚いた。 ・うれしかった。 ・ありがたいなあ。 ・なぜ見ず知らずの私のために…。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少女の驚きや感謝の気持ちに共感させる。 ・いろいろな感情が入り混じっていることを確認する。 ・見ず知らずの自分のための明かりだったと考えてもいなかった少女の気持ちに気付かせ、共感させる。
	<p>(1)明かりをつけていた理由を聞き、「息をのんだ」「声もなかった」少女はどんな気持ちだっただろう。</p> <p>(2)明かりの理由を知る前から、そのくだもの屋で買い物していたのはなぜか。</p> <p>【補助発問】 父はなぜその店でリンゴを買うことにしたのか。</p> <p>(3)くだもの屋が明かりをつけていたのは少女に対してどのよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夜道の明かりをありがたいと思っていたから。 ・明かりをあたたく感じていたから。 →知らず知らずのうちに感謝の気持ちを表していた。 ・父も明かりに感謝していた。 ・帰りの遅い娘が安心して通りを歩けたから ・一人で帰る少女の心細い気持ちを安心させるため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明かりの理由を知らなかった少女がくだもの屋に対して、素直に感謝の気持ちを表現できていたことに着目させる。 ・顔も知らない少女に対し思いやりの心を持ち、それを行動に移したくだもの屋の気持ちに共感させ

	<p>な気持ちがあったからか。</p> <p>(4)私たちの生活になぜ「思いやり」は大切なのだろうか。 (中心発問)</p> <p>グループ活動 (ホワイトボード)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・暗い夜道を帰る少女を心配していた ・少女の歌を楽しみにしていた。 ・まわりにいる誰にでも思いやる心をもつことが大事。 ・人はみんな支えあっているから。 ・気付かれなくても相手の気持ちを考える。 ・黙って見守るだけでも思いやり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・くだもの屋の見返りを求めない優しい気遣いに気付かせる。 ・「誰」とは友人や家族ではない、知り合いではない人を含めていることを確認する。 ・自分もまわりの人も共にかげがえのない存在であることに気付かせる。 <p>☆思いやりの大切さに気付くだけでなく、自分も他者も、共にかげがえのない存在であるということを多面的・多角的に考えている。(ホワイトボード、観察)</p>
	<p>4 自己を見つめる</p> <p>今まで自分は思いやりのある行動をとっていただろうか。今日の授業を終えて考えたことを書こう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・はっきりとした思いやりのある行動はとれていなかったかもしれない。 ・改めて考えると、あれが友だちに対しての思いやりだったかもしれないと思出した。 ・知らない人にも親切にできていたかどうかわからない。 ・家族に優しくしてもらったことはあるが、自分からは恥ずかしくてできなかった。これからは心がけたい。 	<p>☆道徳的価値をもとに、今までの自分を見つめなおし、思いやりのある行動ができていたかを考えている。</p> <p>(ワークシート、発言)</p>
終末	<p>5 教師の説話を聞く</p> <p>電車に乗っていたときに、具合が悪くなった自分に気付いた男性が席を換わってくれたことがあった。それ以来、車内の様子を意識して見るようにしている。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「人への思いやり」について考えた授業であったことをおさえ、今後の生き方に生かせるように余韻をもって終わらせる。

6 他の教育活動等との関連

事前指導	帰りの会で「今日の思いやり」を振り返る取り組みを通して、人への思いやりについて意識付けをする。
道徳科	「コトコの涙」【B 相互理解、寛容】(日本文教出版「あすを生きる2」) 人には様々な考え方があることを理解し、自分の考えを伝えつつ、わかり合い、学ぼうとする謙虚な態度を育てる。
事後指導	学級通信に意見や考えを提示し、仲間の意見を認め合う
家庭との連携	本時の学習内容や生徒の意見や考えを紹介した学級通信を読んでもらうことで、家庭でも「人への思いやり」について話題にしてもらう

7 評価

(1) 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・思いやりの大切さに気付くだけでなく、人はみな共にかげがえのない存在であるということを様々な側面から考えようとしている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

・くだもの屋の思いやりと少女の感謝の心を通して、今までの自分を見つめ直し、考えを深めている。

(2) 評価の観点

【教師の指導方法に関する工夫】

・ホワイトボードを使用し、小グループでの活動を取り入れたことで、話し合いが活発になったか。

8 板書計画

ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード
ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード

↓見知らぬ少女への思いやり

・少女が心細いだろうと思ったから
・少女を心配していたから

↓感謝の気持ちを表していた

くだもの屋が明りをともした理由

私たちの生活になぜ思いやりは大切なのだろうか

人への思いやり

夜のくだもの屋

息をのんだ、声もなかった少女の気持ち

・嬉しい、驚き、私のために：
買った物をしたのはなぜ

・明かりがあたたかい
・明かりがありがたい

9 授業の様子

